

# 第13回 鹿児島県原子力安全

令和3年1月8日に第13回の専門委員会が開催されました。

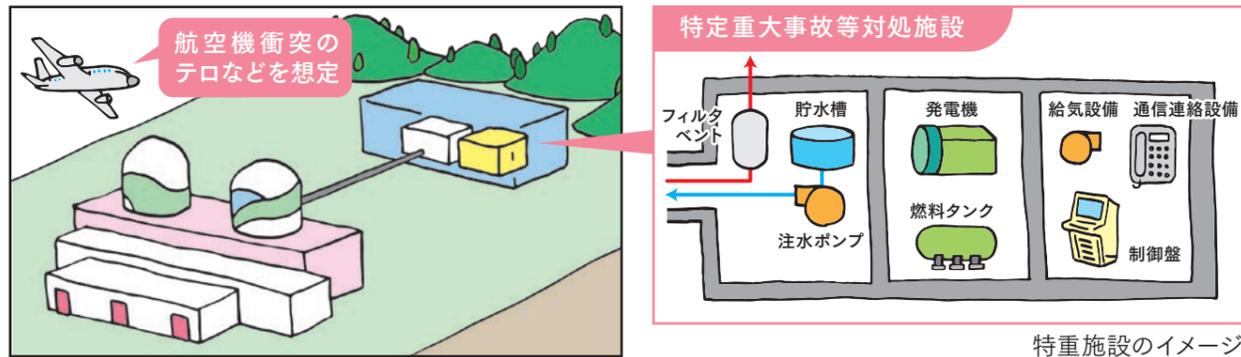
# ・避難計画等防災専門委員会について

九州電力などからの報告を受けて、委員からさまざまな意見や助言がありました。

## 川内原子力発電所の安全性の確認について

### ① 特定重大事故等対処施設(特重施設)の運用開始について(九州電力)

- 特重施設は、1号機が昨年11月11日に、2号機が12月16日に運用を開始したとの説明がありました。



### 主なやりとり

- 委員:** 特重施設の設置により追加の形で緊急時の冷却設備が導入された。これにより発電所の安全性が向上したことを可能な範囲で県民に説明してもらいたい。
- 九州電力:** 特重施設に関する情報の公開は、セキュリティの観点から厳しいところがあるが、可能な範囲でのわかりやすい説明に努めたい。

### ② 廃棄物搬出設備の設置に係る審査結果について(原子力規制庁)

- 九州電力が設置を計画している「廃棄物搬出設備」について、原子力委員会及び経済産業大臣の意見を聴取した上で、昨年10月に設置を許可したとの説明がありました。

#### 廃棄物搬出設備とは(「原子力だよりかごしまNo.140」の2ページにも掲載)

発電所で発生する雑固体廃棄物(配管等の金属類)などを固化し、青森県六ヶ所村の日本原燃(株)低レベル放射性廃棄物埋設センターに搬出するための設備。

#### 審査内容

- 地震、津波、火災による損傷の防止
- 外部(竜巻など)からの衝撃による損傷の防止
- 誤操作の防止
- 放射性廃棄物の処理、貯蔵施設
- 放射線からの防護 など

#### 主な質疑応答

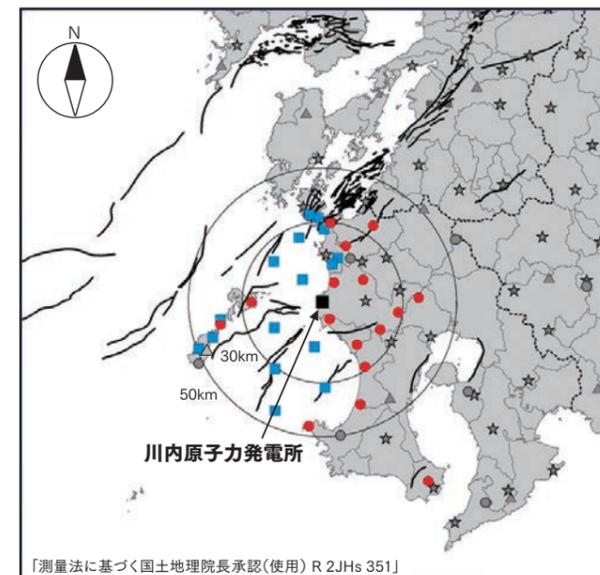
- Q 例えば竜巻など、外部から衝撃があった場合の安全性はどのように判断したのか。
- A 竜巻で建物が一部損壊した場合に、遮へい機能を追加的に措置するなど、運用上の回復措置も含め判断している。

### ③ 川内原子力発電所周辺の地震観測結果(九州電力)

- 2019年に実施した川内原子力発電所周辺の地震観測の概要と観測結果について、説明がありました。

#### 地震観測の概要(「原子力だよりかごしまNo.139」の4ページにも掲載)

安全性・信頼性の向上に向けた取組として、川内原子力発電所周辺の地震活動状況をより詳細に把握するため、2017年度に地震観測体制を強化し、2018年度から観測を開始している。



#### 凡例

- 川内原子力発電所
- 九電常設観測点
- 九電臨時観測点
- ☆ 防災科学技術研究所
- 活断層
- ▲ 気象庁
- 大学

#### 各観測点の観測期間(2019年度)

	観測期間
九電常設観測点	2019.4~2020.3
九電臨時観測点	2019.4~2019.8

※図中以外に1箇所(種子島)設置

#### 観測点設置の考え方

- 発電所敷地への影響が大きい、発電所から半径30km圏内を対象
- 10km間隔程度で30km圏内をまんべんなくカバーする配置
- 30km圏外についても主要な活断層の周囲に配置

#### 結果のまとめ

現状において川内原子力発電所周辺では、大きな地震が発生しておらず、川内原子力発電所の安全性に影響を及ぼすような地震活動は認められない。今後も継続的に観測を行い、川内原子力発電所周辺の地震活動を注視していく。



#### 主なコメント

- 委員:** 海の中の地震観測は非常に大変な作業ではあるが、これからも積極的にデータを取っていただきたい。



3ページへ続きます